

法令および定款に基づくインターネット開示事項

業務の適正を確保するための体制
および当該体制の運用状況

連結株主資本等変動計算書

連 結 注 記 表

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

個 別 注 記 表

2020年4月1日から2021年3月31日まで

東日本旅客鉄道株式会社

業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況、連結計算書類の連結株主資本等変動計算書および連結注記表ならびに計算書類の株主資本等変動計算書および個別注記表につきましては、法令および当社定款第16条の定めに基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.jreast.co.jp/>) に掲載しております。

業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

(業務の適正を確保するための体制)

1 JR東日本グループにおける取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ・ 法令遵守および企業倫理について、当社と当社の連結子会社(以下、「グループ会社」という。)で構成されるJR東日本グループの企業行動指針である「法令遵守及び企業倫理に関する指針」を策定し、具体的な行動のあり方を示すハンドブックを当社およびグループ会社の役員および社員に配付するなど、指針に沿った企業活動の実践を図る。
- ・ 当社の総務・法務戦略部は、全社横断的にコンプライアンスに係る業務を統括するとともに、JR東日本グループにおけるコンプライアンスの確保に向けてグループ会社の法務・総務部門と連携する。
- ・ JR東日本グループとしてのコンプライアンスに関する相談窓口を当社内および外部に設置し、公益通報やコンプライアンス上問題のある事象についての報告を受け付ける。その際、利用者および通報内容等に関する秘密を守り、当該通報を理由とした不利益取扱いを禁止している。
- ・ 当社は、適法で効率的な業務執行確保のための内部監査体制を整えている。また、JR東日本グループにおける業務の適正を確保するため、当社からグループ会社に役員を派遣するなど経営に関与するとともに、当社監査部がグループ会社監査を定期的実施する。

2 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ・ 当社は、法令および社内規程等に従い、取締役の職務執行に係る文書を適切に保存および管理する。取締役は、必要に応じて常時これらの文書を閲覧できる。

3 JR東日本グループにおける損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・ 当社は、経営に関する社内外の環境変化、外部からの犯罪行為、当社およびグループ会社内の不祥事、法令違反などの会社の事業運営に重大な影響を与えるリスクに対しては、業務を管理する各部署においてリスク管理をしているほか、危機管理責任部署および危機管理に関する規程を定め、問題が発生した際には、経営トップが関与しながら、迅速に初動体制を構築し情報の収集および迅速な対応等がとれるよう危機管理体制を構築している。また、グループ会社に対して、同様の危機管理体制を構築し、問題が発生した際には必要に応じて当社に報告するよう指導する。
- ・ 当社は、鉄道の運行に関し、事故・災害等の発生に備え、迅速かつ適切な対応ができる体制ならびに輸送の安全性および安定性を向上させるための体制を整備している。
- ・ 当社の取締役会は、リスク管理の実効性を確保するため、定期的にその取組み状況および今後の方針についてモニタリングを行う。

4 JR東日本グループにおける取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制ならびにグループ会社から当社への職務の執行の報告に関する体制

- ・ 当社は、会社の効率的な事業運営を確保するため、社内規程により、各部署の権限、役割を定め、権限分配している。
- ・ 当社およびグループ会社は、グループ経営ビジョンの浸透を図るとともに、その達成に向けて部門や施策ごとに具体的な計画を定め、その進捗状況については定期的にトレース等を実施するなど、施策を効率的に展開する仕組みを確保する。また、グループ会社は、営業成績、財務状況その他の重要な情報を当社へ定期的に報告している。

5 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項

- ・ 当社は、監査役の監査活動を補助する専任スタッフを監査役室に配置し、監査の実効性を高め、監査活動が円滑に遂行できる体制をとる。

6 監査役を補助すべき使用人の取締役からの独立性および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- ・ 当社監査役室スタッフは、監査役の命令に関して、取締役・他の使用人等の指揮命令を受けない。

7 JR東日本グループにおける当社監査役への報告等に関する体制

- ・ 当社は、取締役会規則に基づいた決議事項の付議基準を定め、適切に取締役会に付議しているほか、当社監査役は、取締役会決議事項以外の重要な事項についても、取締役会および常務会等の会議ならびに取締役・使用人等からの聴取、取締役の職務執行に係る文書により、その内容を確認することができる。
- ・ 当社監査役とグループ会社監査役の間で定例の連絡会を実施し、監査に関する情報の交換を行う。
- ・ 当社は、JR東日本グループにおける公益通報やコンプライアンス上問題のある事象、当社監査部によるグループ会社監査の結果について、当社監査役に定期的に報告する。
- ・ 当社は、監査役へ報告を行った者に対し、当該報告を理由とした不利益取扱いを禁止している。

8 監査役等の職務の執行について生ずる費用等の処理に係る方針に関する事項

- ・ 当社監査役がその職務の執行について、当社に対し費用の前払い等を請求したときは、当該請求に係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要でないことを当社が証明した場合を除き、当社はその費用を負担する。

9 その他監査役等の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・ 当社監査役は、代表取締役社長および会計監査人と、それぞれ定期的に意見交換会を開催する。

(注) 上記は、2021年3月31日現在の体制を記載しております。なお、より実効性のある内部統制システムの構築を目的に、2021年5月14日開催の取締役会の決議により、体制を一部変更しております。

(業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要)

当社グループは、グループ経営ビジョン「変革 2027」において、地域の皆さまやお客さまからの信頼を高め、当社グループの持続的な成長を図るため、ESG経営を推進することを掲げています。コンプライアンス、安全・安心の確保、財政上の損失の防止、財務諸表の健全性の確保などに加え、新たな事業分野への展開などの観点も踏まえたリスクマネジメントに取り組むなど、グループの価値向上をめざしてまいります。

1 コンプライアンスに関する取組み

- ・ 当社グループは、企業行動指針として「法令遵守及び企業倫理に関する指針」を策定し、指針の実効性を高めるため、当社およびグループ会社の役員および社員に「コンプライアンスアクションプラン・ハンドブック」を配付するとともに、意識向上を目的としたコンプライアンス教育を実施しております。
- ・ 当社は、社内および社外にコンプライアンス相談窓口を設置し、当社およびグループ会社の役員および社員や取引先等からの相談・通報に対し、公益通報取扱規程等に則り、必要な調査および是正措置を行うとともに、通報者へ回答しています。なお、通報者に対し、相談・通報を理由に不利益な取扱いを行わないよう、当社およびグループ会社の役員および社員に周知しております。
- ・ 当社は、グループ会社が実施する「業務の適正を確保するための体制」のトレースに関する報告を受け、その運用状況の確認ならびに指導を実施しております。
- ・ 当社は、監査部門に専任スタッフを配置し、適法で効率的な業務執行確保のための監査体制を整えております。各箇所を対象として内部監査を概ね年1回、全てのグループ会社を対象としてグループ会社監査を概ね3年に1回の頻度で実施しております。
- ・ 当社は、当社の役員および社員を全てのグループ会社に役員として派遣し、その者が当該会社の取締役会に出席して意見を述べるなど、グループ会社の経営に関与しております。

2 リスク管理に関する取組み

- ・ 当社グループでは、2019年度にグループ全体のリスクマネジメントを強化し、各事業に共通・特有のリスクの回避・低減に取り組んでおります。具体的には、毎年、事業全体のリスクを外部の知見や社内の意見等をもとに洗い出し、発生頻度および影響度を踏まえた分析・評価を行ったうえで重要なリスクを定め、その回避・低減策を検討・実施しております。このように、PDCAサイクルを回してリスクの見直し等を図り、年2回取締役会でリスクの回避・低減に向けた取組みの達成度・進捗をモニタリングするとともに、今後の方針について検討を行い、リスクマネジメントの実効性を確保しております。
- ・ 当社は、危機管理に関する基本的事項について危機管理本部規程に定めております。危機が発生した場合は、同規程に基づき、危機管理本部において経営トップが初期から関与し、トップダウンで関係部署の役割を指定するなど、初動体制を確立しております。また、当社はグループ会社に対し、危機管理に対応する組織の設置や危機事案発生時の速やかな報告について指導するなど、当社グループとしての危機管理体制を構築しております。
- ・ 当社は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け、社長をトップとした新型コロナウイルス対策本部を設置し、グループ内の対応状況について情報収集や共有を図るとともに、国や自治体の動向

を踏まえて、お客さまや社員の感染防止に向けた対策を指示するなど適切に対応しております。

- ・ 当社は、安全を経営のトッププライオリティに位置付けており、2018年11月に策定した「グループ安全計画2023」のもと、一人ひとりの「安全行動」を起点に、「究極の安全」をめざしております。具体的には、鉄道の運行に関し、事故・災害等の発生に備えて、輸送指令室を24時間体制とするなど、迅速かつ適切に対応できる体制を整えております。あわせて、輸送の安全性および安定性を向上させるため、社内に設置した専門の各委員会において議論を行い、重大な事故・事象の「再発防止」および「未然防止」に努めております。

3 職務執行の効率性の確保に関する取組み

- ・ 当社は、取締役会を原則として毎月1回開催し、法定の事項その他重要な業務執行についての決定等を行っております。
- ・ 当社は、取締役会の定めるところにより、役付取締役等で構成される常務会を置き、原則として毎週1回開催して取締役会の決議事項およびその他の経営上の重要事項について審議を行っております。
- ・ 当社は、社内の業務執行について、組織規程等により、各部門の分掌事項と職務権限を明確に定めております。
- ・ 当社は、新型コロナウイルス感染症をはじめとした社内外の環境の変化に対応し、「変革 2027」を実現するため、2020年9月に公表した「変革のスピードアップ」のもと、「成長・イノベーション戦略の再構築」、「経営体質の抜本的強化」および「ESG経営の実践」といった取組みを進めております。
- ・ 当社は、グループ会社から四半期ごとに営業成績や財務状況等の報告を受けております。また、担当部署が開催する会議等において、経営目標の進捗や経営上の課題等について報告を受け、意見交換を行っております。

4 監査役監査の実効性の確保に関する取組み

- ・ 当社は、監査役を補佐するため取締役から独立した10名程度の専任スタッフを配置し、監査役の監査活動を円滑に遂行できる体制を整えております。
- ・ 当社監査役は、監査役会が定めた方針に従い、取締役会、常務会等の重要会議への出席などを通じ、取締役の職務執行の監査を行うほか、当社代表取締役および会計監査人と定期的に意見交換会を実施しております。また、当社監査部による監査結果の報告を概ね月に1回受けております。
- ・ 当社監査役は、グループ会社の監査役との間で連絡会を年に2回開催し、監査に関する情報交換を行っております。また、各グループ会社には概ね3年に1回訪問し、当該会社の代表取締役等と情報交換を行い、さらに重要なグループ会社からは3年に1回営業報告を受けております。
- ・ 当社は、当社グループにおける公益通報やコンプライアンスに関わる事象を概ね年に2回、当社監査部によるグループ会社監査の結果を概ね月1回、当社監査役に報告するとともに、重要事象については随時当社監査役に報告しております。

連結株主資本等変動計算書 (2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	200,000	96,796	2,809,369	△ 5,546	3,100,618	32,975	2,405	△ 418	△ 15	10,629	45,577	27,231	3,173,427
当期変動額													
剰余金の配当			△ 50,032		△ 50,032								△ 50,032
親会社株主に帰属する 当期純損失			△ 577,900		△ 577,900								△ 577,900
合併による増減			134		134								134
自己株式の取得				△ 8	△ 8								△ 8
自己株式の処分			△ 0	1	0								0
連結子会社の増資による 持分の増減		△ 66			△ 66								△ 66
連結子会社株式の取得 による持分の増減		△ 207			△ 207								△ 207
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						21,346	△ 267	△ 15	△ 10	△ 4,142	16,909	△ 4,896	12,013
当期変動額合計	-	△ 273	△ 627,798	△ 6	△ 628,079	21,346	△ 267	△ 15	△ 10	△ 4,142	16,909	△ 4,896	△ 616,066
当期末残高	200,000	96,522	2,181,570	△ 5,553	2,472,539	54,322	2,137	△ 433	△ 25	6,486	62,487	22,334	2,557,361

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結注記表

1 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

子会社のうち日本ホテル(株)、(株)ビューカード、(株)JR東日本リテールネット、ジェイアールバス関東(株)等71社を連結の範囲に含めております。

当連結会計年度の新規連結子会社は、新規設立による(株)えきまちエナジークリエイト1社であります。

なお、ジェイアール東日本フードビジネス(株)は(株)日本レストランエンタプライズ(現(株)JR東日本クロスステーション)と合併し消滅しております。

(株)JR東日本リテールネットは、非連結子会社の(株)アドレスト長野を吸収合併しております。

非連結子会社は(株)ルミネリゾート、(株)アトレインターナショナル等であります。非連結子会社の総資産の合計額、売上高の合計額、当期純損益および利益剰余金の額等のうち持分に見合う額の合計額は、連結会社の総資産の合計額、売上高の合計額、当期純損益および利益剰余金の額等のうち持分に見合う額の合計額に比していずれも少額であり、これらの子会社を連結の範囲から除外しても当企業集団の財政状態および経営成績に関する合理的な判断を妨げる程度の重要性はありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

関連会社のうちUQコミュニケーションズ(株)、日本電設工業(株)、セントラル警備保障(株)、日本リーテック(株)、(株)JTbおよび東日本電気エンジニアリング(株)の6社に対する投資について持分法を適用しております。

非連結子会社および持分法非適用の関連会社(成田空港高速鉄道(株)等)に対する投資については、それぞれの当期純損益および利益剰余金の額等のうち持分に見合う額の合計額が、連結会社および持分法を適用する会社の当期純損益および利益剰余金の額等のうち持分に見合う額の合計額に比していずれも少額であり、連結純損益および連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であるため、持分法を適用しておりません。

なお、持分法適用関連会社のうち決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る計算書類を使用しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちJR East Business Development SEA Pte. Ltd.および台湾捷爾東事業開發股份有限公司の事業年度の末日は12月31日、(株)オレンジページの事業年度の末日は2月28日であります。連結計算書類の作成に当たっては、同日現在の計算書類を使用しておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整をしております。

また、(株)ガーラ湯沢の事業年度の末日は9月30日ありますが、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく貸借対照表、損益計算書および株主資本等変動計算書により作成しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準および評価方法

i) 有価証券の評価基準および評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっております。

その他有価証券

a 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)。

b 時価のないもの

匿名組合およびそれに類する組合等への出資(金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

その他は主として移動平均法に基づく原価法によっております。

ii) デリバティブの評価基準および評価方法

時価法によっております。

iii) たな卸資産の評価基準および評価方法

分譲土地建物	個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
商品及び製品	主として売価還元法、移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
仕掛品	主として個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
原材料及び貯蔵品	主として移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

i) 有形固定資産

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)、2016年4月1日以降取得した建物附属設備および構築物ならびに連結子会社の一部有形固定資産については定額法によっております。なお、鉄道事業取替資産については取替法によっております。

耐用年数および残存価額等については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

ii) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、各社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

③ 繰延資産の処理方法

社債発行費は、支出時に全額費用処理しております。

④ 重要な引当金の計上基準

i) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ii) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額基準により計上しております。

iii) 新幹線鉄道大規模改修引当金

全国新幹線鉄道整備法(昭和45年法律第71号)第17条の規定に基づいて計上しております。

当社は、2016年3月29日付で、国土交通大臣より全国新幹線鉄道整備法第16条第1項の規定に基づく新幹線鉄道大規模改修引当金積立計画の承認を受けました。これにより、2016年度から2030年度の毎年度は24,000百万円(総額360,000百万円)の引当金の積立てを行い、2031年度から2040年度の毎年度は36,000百万円(総額360,000百万円)の引当金の取崩しを行います。

iv) 災害損失引当金

2011年3月11日に発生した東日本大震災や、2021年2月13日に発生した福島県沖の地震に伴う復旧費用等の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。

また、2019年9月9日に上陸した台風第15号および10月12日に上陸した台風第19号に伴う復旧費用等の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。

v) 一部線区移管引当金

只見線会津川口～只見間について当社から福島県への鉄道施設等の無償譲渡に向けた原状復旧費用等の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。

⑤ 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

i) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ii) 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により按分した額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生時の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

⑥ 重要なヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている通貨スワップおよび為替予約については振当処理によっております。また、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

⑦ 工事負担金等の圧縮記帳の会計処理

鉄道事業における連続立体交差の高架化工事等を行うにあたり、地方公共団体等より工事費の一部として工事負担金等を受けっております。

これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得価額から直接減額して計上しております。

連結損益計算書においては、工事負担金等受入額を収用に伴う受入額も含めて「工事負担金等受入額」として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得価額から直接減額した額を収用に伴う圧縮額も含めて「工事負担金等圧縮額」として特別損失に計上しております。

なお、特別利益に計上した「工事負担金等受入額」のうち収用に伴う受入額を除いた額は15,064百万円であり、特別損失に計上した「工事負担金等圧縮額」のうち収用に伴う圧縮額を除いた額は14,249百万円であります。

⑧ 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

2 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)の公表に伴う「会社計算規則の一部を改正する省令」(令和2年法務省令第45号 令和2年8月12日)による改正後の会社計算規則に基づき、連結計算書類に会計上の見積りに関する注記を記載しております。

3 会計上の見積りに関する注記

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繰延税金資産 344,825百万円

(2) その他の情報

繰延税金資産は、将来の連結会計年度における将来減算一時差異の解消および税務上の繰越欠損金と課税所得との相殺にかかる減額税金の見積り額について、将来の課税所得の見積り等に基づき回収可能性を判断し計上しております。

課税所得の見積りは、業績予測を基礎としており、業績予測にあたっての主要な仮定として、鉄道運輸収入は新型コロナウイルス感染症流行前の水準と比較し、2021年度内に約85%まで、2022年度内に約90%まで回復するものの、テレワークの浸透などの社会的な構造変化の影響は継続するものと想定しております。

新型コロナウイルス感染症の収束時期の遅れなどの要因により、鉄道運輸収入の回復が想定通り進まず、課税所得の見積りの変更が必要となる場合、翌連結会計年度の繰延税金資産の回収可能性の判断に影響を与える可能性があります。

4 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保提供資産

① 担保に供している資産は次のとおりであります。

現金及び預金	172百万円
そ の 他	1,004百万円
計	1,177百万円

上記に対応する債務は次のとおりであります。

支払手形及び買掛金	719百万円
そ の 他	16百万円
計	736百万円

② 財団抵当に供している資産(鉄道財団)は次のとおりであります。

建物及び構築物	3,671百万円
そ の 他	3,908百万円
計	7,580百万円

上記に対応する債務は次のとおりであります。

鉄道施設購入長期未払金	493百万円
-------------	--------

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 8,247,574百万円

(3) 固定資産の取得価額から直接減額された工事負担金等圧縮累計額 945,389百万円

(4) 偶発債務

① 受注契約に係る契約履行保証

Japan Transportation Technology (Thailand) Co., Ltd. 10,540百万円
(円換算値、当社を含め3社による連帯保証)

② 系統接続工事費用に関する金融機関の信用状に対する保証 秋田由利本荘洋上風力合同会社	2,816百万円
③ 金融機関からの借入金に対する保証債務 (株)パワープランツ	3,200百万円
(5) たな卸資産に含まれる各科目の金額	
商品及び製品	7,227百万円
仕掛品	39,797百万円
原材料及び貯蔵品	36,622百万円

(6) 土地の再評価

当社の持分法適用関連会社である(株)JTBが、「土地の再評価に関する法律」(平成10年法律第34号)および「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年法律第19号)に基づき事業用の土地の再評価を行ってまいりました(株)JTBエステートを、2012年4月1日に吸収合併しました。これに伴い、(株)JTBの貸借対照表に計上された土地再評価差額金のうち、当社の持分相当額について純資産の部に土地再評価差額金として計上しております。

① 再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年政令第119号)第2条第4号に定める算定方法に基づき、路線価等を基準として合理的な調整を行い算出しております。

② 再評価を行った年月日

2002年3月31日

③ 再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

再評価を行った土地の時価が再評価後の帳簿価額を上回っているため、差額を記載しておりません。

5 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末における発行済株式の種類および総数

普通株式 377,932,400株

(2) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	31,152	82.5	2020年3月31日	2020年6月24日
2020年10月28日 取締役会	普通株式	18,880	50	2020年9月30日	2020年11月20日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議(予定)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月22日 定時株主総会	普通株式	18,880	利益剰余金	50	2021年3月31日	2021年6月23日

6 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社および当社の連結子会社は、余裕資金が生じる場合の資金運用については安全性の高い金融資産に限定しており、資金調達については、主に社債発行や銀行借入によっております。また、デリバティブについては、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行っておりません。

② 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金ならびに未収運賃は、顧客および連絡運輸会社等の信用リスクにさらされております。当該リスクに関しては、当社および当社の連結子会社の社内規程に従い、取引先ごとに適切な期日管理および残高管理を行っております。

有価証券および投資有価証券は、市場価格の変動リスクにさらされております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金、預り連絡運賃、未払消費税等ならびに未払法人税等は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

社債および借入金は、想定外の事由によるフリー・キャッシュ・フローの減少に伴い、支払期日に支払を実行できなくなるリスクにさらされております。また、これらのうち一部は、市場価格(為替・金利)の変動リスクにさらされております。

鉄道施設購入長期未払金は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に対する債務であり、主に「新幹線鉄道に係る鉄道施設の譲渡等に関する法律」に基づき、1991年10月1日に新幹線鉄道保有機構から新幹線鉄道施設を3,106,969百万円で譲り受けた際の譲渡価額に係る債務(利付)であります。その譲渡価額および対価の支払方法は1991年に制定された「新幹線鉄道に係る鉄道施設の譲渡等に関する法律」等の規定に基づき、運輸大臣(制定当時)の認可を受けた利率による元利均等半年賦支払の方法により算定される半年賦金の合計額を支払うこととなっております。この鉄道施設購入長期未払金は、想定外の事由によるフリー・キャッシュ・フローの減少に伴い、支払期日に支払を実行できなくなるリスクにさらされているほか、一部は市場価格(金利)の変動リスクにさらされております。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

当社および当社の連結子会社は、社債および借入金等に関する将来の市場価格(為替・金利)の変動に係るリスクを回避する目的で、為替予約取引、通貨スワップ取引、金利スワップ取引を利用しております。また、燃料購入に係る商品価格の変動リスクを回避する目的で商品価格スワップ取引を、自然災害による収支変動リスクを回避する目的で自然災害デリバティブ取引を利用しております。

当社および当社の連結子会社のデリバティブ取引の契約先は、いずれも信用度の高い金融機関であるため、相手先の債務不履行によるリスクはほとんど発生しないと認識しております。

これらのデリバティブ取引については、各社において、取締役会で決議された取引の適正な実行およびリスク管理を目的とした基本方針に基づき、財務担当部署が、関係する社内規程に従い、取締役会の決議または適正な社内手続きを経て実行しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく時価のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。また、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めておりません。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
① 現金及び預金	198,130	198,130	－
② 受取手形及び売掛金	470,611	470,611	－
③ 未収運賃	38,536	38,536	－
④ 有価証券および投資有価証券			
i) 満期保有目的の債券	147	149	1
ii) その他有価証券	211,423	211,423	－
資産計	918,850	918,851	1
① 支払手形及び買掛金	52,909	52,909	－
② 短期借入金	300,000	300,000	－
③ 未払金	477,546	477,546	－
④ 未払消費税等	7,856	7,856	－
⑤ 未払法人税等	22,074	22,074	－
⑥ 預り連絡運賃	33,992	33,992	－
⑦ 社債	2,020,308	2,180,067	159,759
⑧ 長期借入金	1,292,192	1,345,181	52,989
⑨ 鉄道施設購入長期未払金	323,088	676,048	352,959
負債計	4,529,969	5,095,677	565,708
デリバティブ取引(*)			
ヘッジ会計が適用されているもの	3,075	3,075	－

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資 産

① 現金及び預金、② 受取手形及び売掛金および③ 未収運賃

これらは主に短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

④ 有価証券および投資有価証券

これらの時価について、主に市場価格によっております。

負 債

① 支払手形及び買掛金、② 短期借入金、③ 未払金、④ 未払消費税等、⑤ 未払法人税等および⑥ 預り連絡運賃

これらは短期間で決済または納付されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

⑦ 社債

国内債の時価について、市場価格によっております。

外貨建社債の時価については、通貨スワップの振当処理の対象とされていることから、当該通貨スワップと一体として処理された将来キャッシュ・フローを、同様の国内債を新規発行した場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

⑧ 長期借入金

長期借入金の時価については主に、将来キャッシュ・フローを、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。なお、一部の長期借入金の時価については、通貨スワップまたは金利スワップの対象とされていることから、当該通貨スワップまたは金利スワップと一体として処理された将来キャッシュ・フローを、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

⑨ 鉄道施設購入長期未払金

鉄道施設購入長期未払金の時価については、「(1) 金融商品の状況に関する事項 ② 金融商品の内容およびそのリスク」に記載しているとおり、市場原理に従って契約当事者間の自由な合意のみによって成立するものではなく、法令の制約を受ける特殊な金銭債務であり、同様の手段での再調達が困難なため、将来キャッシュ・フローを当社の基本的な資金調達手段である社債により再調達したと仮定して、同様の国内債を新規発行した場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。なお、変動金利による一部の鉄道施設購入長期未払金の将来キャッシュ・フローについては、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構より通知された直近の利率に基づき算定しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価について、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

ただし、為替予約および通貨スワップの振当処理ならびに金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている社債および借入金等と一体として処理されているため、それらの時価は、当該社債および借入金等の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式(*1)	7,037
非上場債券(*1)	540
新株予約権(*1)	100
合同会社出資金(*1)	2,936
投資事業組合出資金(*1)	9,680
優先出資証券(*1)	2,506
自然災害デリバティブ取引(*2)	1,438

(*1) 非上場株式、非上場債券、新株予約権、合同会社出資金、投資事業組合出資金および優先出資証券については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「④ 有価証券および投資有価証券 ii) その他有価証券」には含めておりません。

(*2) 当連結会計年度末における自然災害デリバティブ取引については、公正な評価額を算定することが極めて困難であるため、時価評価は行っておりません。

(注3) 社債、長期借入金および鉄道施設購入長期未払金に係る連結貸借対照表計上額および時価については、それぞれ1年内償還予定の社債、1年内に返済予定の長期借入金および1年内に支払う鉄道施設購入長期未払金を含めております。

7 賃貸等不動産に関する注記

当社および当社の一部の連結子会社では、主に当社営業エリア内において、賃貸オフィスビルや賃貸商業施設等(以下「賃貸等不動産」という)を所有しております。

賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額および時価は、次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)
854,254	2,404,297

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

(注2) 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価等に基づく金額、その他の物件については一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて自社で算定した金額であります。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

(注3) 開発中の資産については、時価を把握することが極めて困難であるため、上表には含めておりません。なお、開発中の資産の連結貸借対照表計上額は149,787百万円であります。

8 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	6,719円93銭
1株当たり当期純損失	△1,531円91銭

9 重要な後発事象に関する注記

(1) 社債の発行

当社は、以下の条件で普通社債を発行いたしました。

① 東日本旅客鉄道株式会社第162回無担保普通社債

- i) 発行年月日 2021年4月15日
- ii) 発行総額 45,000百万円
- iii) 発行価格 額面100円につき100円00銭3厘
- iv) 利率 年0.001%
- v) 償還期限 2024年4月15日
- vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

② 東日本旅客鉄道株式会社第163回無担保普通社債

- i) 発行年月日 2021年4月15日
- ii) 発行総額 30,000百万円
- iii) 発行価格 額面100円につき100円
- iv) 利率 年0.050%
- v) 償還期限 2026年4月15日
- vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

③ 東日本旅客鉄道株式会社第164回無担保普通社債

- i) 発行年月日 2021年4月15日
- ii) 発行総額 20,000百万円
- iii) 発行価格 額面100円につき100円
- iv) 利率 年0.245%
- v) 償還期限 2031年4月15日
- vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

- ④ 東日本旅客鉄道株式会社第165回無担保普通社債
- i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 30,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年0.596%
 - v) 償還期限 2041年4月15日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等
- ⑤ 東日本旅客鉄道株式会社第166回無担保普通社債
- i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 20,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年0.847%
 - v) 償還期限 2051年4月14日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等
- ⑥ 東日本旅客鉄道株式会社第167回無担保普通社債
- i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 20,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年0.978%
 - v) 償還期限 2061年4月15日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等
- ⑦ 東日本旅客鉄道株式会社第168回無担保普通社債
- i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 35,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年1.142%
 - v) 償還期限 2071年4月15日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

(2) その他の多額な資金の調達

当社は、新型コロナウイルス感染症による影響に備えた資金確保および有利子負債の償還等を目的として、以下の資金調達を実行いたしました。

- ① コマーシャル・ペーパーの発行
- i) 発行年月日 2021年4月22日
 - ii) 発行総額 100,000百万円
 - iii) 利率 年△0.030～△0.019%
 - iv) 償還期限 2022年3月22日
 - v) 担保等の有無 無担保・無保証
- ② 長期借入
- i) 借入実行日 2021年4月27日
 - ii) 借入先 (株)みずほ銀行、(株)三菱UFJ銀行、(株)三井住友銀行
 - iii) 借入総額 150,000百万円
 - iv) 利率 基準金利＋スプレッド
 - v) 返済期限 2027年10月27日～2030年10月25日
 - vi) 担保等の有無 無担保・無保証

株主資本等変動計算書 (2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本										評価・換算差額等			純資産 合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益		評価・換算 差額等 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金											利益 剰余金 合計
					特別償却 準備金	新事業開拓 事業者投資 損失準備金	固定資産 圧縮積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金							
当期首残高	200,000	96,600	96,600	22,173	1,427	83	57,982	1,720,000	426,797	2,228,465	△ 3,409	2,521,656	27,292	2,397	29,689	2,551,346
当期変動額																
特別償却準備金の積立					460				△ 460	-						
特別償却準備金の取崩					△ 327				327	-						
新事業開拓事業者投資 損失準備金の積立						82			△ 82	-						
新事業開拓事業者投資 損失準備金の取崩						△ 83			83	-						
固定資産圧縮積立金の積立							8,271		△ 8,271	-						
固定資産圧縮積立金の取崩							△ 1,458		1,458	-						
剰余金の配当									△ 50,032	△ 50,032		△ 50,032				△ 50,032
当期純損失									△ 506,631	△ 506,631		△ 506,631				△ 506,631
自己株式の取得										△ 8	△ 8					△ 8
自己株式の処分									△ 0	△ 0	1	0				0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)													19,813	△ 260	19,553	19,553
当期変動額合計	-	-	-	-	132	△ 1	6,813	-	△ 563,609	△ 556,664	△ 6	△ 556,671	19,813	△ 260	19,553	△ 537,117
当期末残高	200,000	96,600	96,600	22,173	1,560	82	64,796	1,720,000	△ 136,811	1,671,801	△ 3,416	1,964,985	47,105	2,137	49,243	2,014,228

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっております。

子会社株式および関連会社株式

移動平均法に基づく原価法によっております。

その他有価証券

・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法によっております(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)。

・時価のないもの

移動平均法に基づく原価法によっております。

匿名組合およびそれに類する組合等への出資(金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) デリバティブの評価基準および評価方法

時価法によっております。

(3) たな卸資産の評価基準および評価方法

分譲土地建物 個別法に基づく原価法によっております(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)。

貯蔵品 移動平均法に基づく原価法によっております(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)。

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに2016年4月1日以降取得した建物附属設備および構築物については定額法によっております。なお、鉄道事業固定資産の構築物のうち取替資産については取替法によっております。

耐用年数および残存価額等については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

② 無形固定資産

定額法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 繰延資産の処理方法

社債発行費 支出時に全額費用処理しております。

(6) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額基準により計上しております。

③ 新幹線鉄道大規模改修引当金

全国新幹線鉄道整備法(昭和45年法律第71号)第17条の規定に基づいて計上しております。

当社は、2016年3月29日付で、国土交通大臣より全国新幹線鉄道整備法第16条第1項の規定に基づく新幹線鉄道大規模改修引当金積立計画の承認を受けました。これにより、2016年度から2030年度の毎年度は24,000百万円(総額360,000百万円)の引当金の積立を行い、2031年度から2040年度の毎年度は36,000百万円(総額360,000百万円)の引当金の取崩しを行います。

④ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づいて、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

i) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ii) 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

⑤ 災害損失引当金

2011年3月11日に発生した東日本大震災や、2021年2月13日に発生した福島県沖の地震に伴う復旧費用等の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。

また、2019年9月9日に上陸した台風第15号および10月12日に上陸した台風第19号に伴う復旧費用等の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。

⑥ 環境対策引当金

土壌汚染対策法に基づき、汚染された土壌の処理費用の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。なお、現時点で合理的に見積ることが困難な処理費用等については、環境対策引当金に含めておりません。

また、文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の記録保存調査等の費用の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。

さらに、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に基づき、保管する低濃度PCB廃棄物の処理費用の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。なお、高濃度PCB廃棄物の処理費用についてはその他の固定負債に計上しております。

⑦ 一部線区移管引当金

只見線会津川口～只見間について当社から福島県への鉄道施設等の無償譲渡に向けた原状復旧費用等の支出に備えるため、その見積り額を計上しております。

⑧ ポイント引当金

「JRE POINT」の利用に備えるため、当事業年度末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

(7) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている通貨スワップおよび為替予約については振当処理によっております。また、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

(8) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(9) 工事負担金等の圧縮記帳の会計処理

鉄道事業における連続立体交差の高架化工事等を行うにあたり、地方公共団体等より工事費の一部として工事負担金等を受けております。

これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得価額から直接減額して計上しております。

損益計算書においては、工事負担金等受入額を取用に伴う受入額も含めて「工事負担金等受入額」として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得価額から直接減額した額を取用に伴う圧縮額も含めて「工事負担金等圧縮額」として特別損失に計上しております。

なお、特別利益に計上した「工事負担金等受入額」のうち取用に伴う受入額を除いた額は15,064百万円であり、特別損失に計上した「工事負担金等圧縮額」のうち取用に伴う圧縮額を除いた額は14,249百万円であります。

(10) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

2 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)の公表に伴う「会社計算規則の一部を改正する省令」(令和2年法務省令第45号 令和2年8月12日)による改正後の会社計算規則に基づき、計算書類に会計上の見積りに関する注記を記載しております。

3 会計上の見積りに関する注記

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

繰延税金資産 290,182百万円

(2) その他の情報

連結注記表「3 会計上の見積りに関する注記」に同一の内容を記載しているため、記載を省略しております。

4 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 7,435,737百万円

(2) 事業用固定資産

有形固定資産 6,270,272百万円

土地 2,052,597百万円 建物 1,111,970百万円

構築物 2,327,211百万円 車両 453,783百万円

その他 324,708百万円

無形固定資産 54,761百万円

(3) 固定資産の取得価額から直接減額された工事負担金等圧縮累計額 945,389百万円

(4) 偶発債務

受注契約に係る契約履行保証

Japan Transportation Technology (Thailand) Co., Ltd. 10,540百万円

(円換算値、当社を含め3社による連帯保証)

(5) 関係会社に対する金銭債権および金銭債務	
短期金銭債権	310,319百万円
長期金銭債権	157,999百万円
短期金銭債務	405,349百万円
長期金銭債務	78,454百万円
(6) 全国新幹線鉄道整備法(昭和45年法律第71号)第17条の規定により計上する	
新幹線鉄道大規模改修引当金	120,000百万円

5 損益計算書に関する注記

(1) 営業収益	1,184,145百万円
(2) 営業費	1,662,681百万円
運送営業費及び売上原価	997,814百万円
販売費及び一般管理費	247,101百万円
諸 税	96,499百万円
減 価 償 却 費	321,266百万円
(3) 関係会社との取引高	営業取引による取引高
	営業収益
	142,135百万円
	営業費
	428,539百万円
	営業取引以外の取引高
	243,427百万円
(4) 全国新幹線鉄道整備法(昭和45年法律第71号)第17条の規定により計上する	
新幹線鉄道大規模改修引当金繰入額	24,000百万円

6 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類および株式数	
普通株式	331,630株

7 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生 の主な原因は、税務上の繰越欠損金、退職給付引当金等であり、繰延税金負債の発生 の主な原因は、固定資産圧縮積立金、その他有価証券評価差額金等であります。

なお、繰延税金資産から控除された金額(評価性引当額)は95,242百万円であります。

8 関連当事者との取引に関する注記

子会社

種類	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
子会社	(株)ビューカード	所有直接100%	役員の兼任 加盟店契約	クレジットカード 債権の譲渡等	1,258,650	未収運賃	184,740

取引金額および期末残高には消費税等は含まれておりません。

取引条件および取引条件の決定方針等

クレジットカード債権の譲渡等については、一般取引条件を参考に決定しております。

9 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	5,334円28銭
1株当たり当期純損失	△1,341円71銭

10 重要な後発事象に関する注記

(1) 社債の発行

当社は、以下の条件で普通社債を発行いたしました。

- ① 東日本旅客鉄道株式会社第162回無担保普通社債
 - i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 45,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円00銭3厘
 - iv) 利率 年0.001%
 - v) 償還期限 2024年4月15日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

- ② 東日本旅客鉄道株式会社第163回無担保普通社債
 - i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 30,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年0.050%
 - v) 償還期限 2026年4月15日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

- ③ 東日本旅客鉄道株式会社第164回無担保普通社債
 - i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 20,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年0.245%
 - v) 償還期限 2031年4月15日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

- ④ 東日本旅客鉄道株式会社第165回無担保普通社債
 - i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 30,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年0.596%
 - v) 償還期限 2041年4月15日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

- ⑤ 東日本旅客鉄道株式会社第166回無担保普通社債
 - i) 発行年月日 2021年4月15日
 - ii) 発行総額 20,000百万円
 - iii) 発行価格 額面100円につき100円
 - iv) 利率 年0.847%
 - v) 償還期限 2051年4月14日
 - vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

⑥ 東日本旅客鉄道株式会社第167回無担保普通社債

- i) 発行年月日 2021年4月15日
- ii) 発行総額 20,000百万円
- iii) 発行価格 額面100円につき100円
- iv) 利率 年0.978%
- v) 償還期限 2061年4月15日
- vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

⑦ 東日本旅客鉄道株式会社第168回無担保普通社債

- i) 発行年月日 2021年4月15日
- ii) 発行総額 35,000百万円
- iii) 発行価格 額面100円につき100円
- iv) 利率 年1.142%
- v) 償還期限 2071年4月15日
- vi) 資金使途 有利子負債の償還資金等

(2) その他の多額な資金の調達

当社は、新型コロナウイルス感染症による影響に備えた資金確保および有利子負債の償還等を目的として、以下の資金調達を実行いたしました。

① コマーシャル・ペーパーの発行

- i) 発行年月日 2021年4月22日
- ii) 発行総額 100,000百万円
- iii) 利率 年 Δ 0.030~ Δ 0.019%
- iv) 償還期限 2022年3月22日
- v) 担保等の有無 無担保・無保証

② 長期借入

- i) 借入実行日 2021年4月27日
- ii) 借入先 (株)みずほ銀行、(株)三菱UFJ銀行、(株)三井住友銀行
- iii) 借入総額 150,000百万円
- iv) 利率 基準金利+スプレッド
- v) 返済期限 2027年10月27日~2030年10月25日
- vi) 担保等の有無 無担保・無保証

以 上

東日本旅客鉄道株式会社

〒151-8578 東京都渋谷区代々木二丁目2番2号
ホームページ <https://www.jreast.co.jp/>



UD
FONT